

2015年4月24日

横浜市立青葉台中学校 学校だより 自由と規律 - 5月号

Tel 983-1062 Fax 983-7103

E-mail: y2aobada@edu.city.yokohama.jp

発行者: 青葉台中学校 校長 脇山 幸之

毎月テーマを決めて、書いていく方法を私はとっています。今月は“青葉台中学校及び青葉台中生に期待すること”で書きます。4月に本校に着任して思ったことから、書きたいと思います。

①礼儀正しい生徒が多い。②学校目標のように、自由と規律を一人一人がしっかりと守っている。③アクティブな生徒が多い。④先生方。熱心に指導され、規律をもって、生徒の自主性を活かしている。⑤学校に協力的な、PTAをはじめとした保護者の方が多い。⑥しっかりと学校を支えてくださる人々が地域に多い・・・など、を感じました。このような素晴らしい環境のもと、子供の育成に携わることができるのはすばらしいと感じており、その責務の重大さを改めて感じています。日々 生徒の姿について感心しています。

私は、もともと民間企業で30年以上働いていました。その際感じていた、多くの新入社員たちが共通して持っている特質に危機を感じていました。それは、与えられた問題や課題はうまくしかも短時間で解決できる人が多い、しかし、困った問題が発生すると、それを自分たちで、また仲間たちで、まず課題をつくることができない、だからましてやそれを解決することができない。そういう若者が多くいるということを発見しました。要は答えのない問題、課題を解決することができないということです。世界はグローバル化していきつづけていると言われていて、そして日本の人口は2050年に9-8000万人になると言われています。その時代の世界を生きて動かしていくのは、今の中学生、小学生たちです。その子供たちが将来何を感じ、何をどう解決していくのかを、今教えるのは難しいです。しかし今できることはあります。それはその解決のための考え方を、そして考える力を身に付けてもらうことです。これをこの地域で「力をいっぱい持った子供たち」に付けてもらいたい、と考えました。

もう一つ、私は、前職でものつくりの仕事をしていました。日本の特徴の一つである“ものづくり”はとってもとっても素晴らしい営みです。自分では最高の仕事だと思っていました。でも先ほど言った若者に多く接していると、もっと素晴らしい仕事があることに気づきました。それは“ひとつづくり”です。なぜそう思ったのか?

「もの(製品)」は、工場出荷時、最高の品質をもっていきます。が、どんなに優れていても、日に日に性能が落ちて、修理が必要となります。そして修理してもそれ以上のものにはならない、そして最後は捨てられることとなります。そういう意味では人も最後は死を迎えることは否めないですが、ものの一生涯と比べてみると、人は自分の力で、どんどん成長していきます。つまり中学校を卒業してもその時がその人の最高品質ではない、(中学生卒業時期の完成型が、もしあったとしても、それだけが達成されていても意味がないと思います。)人は自己の勉強を重ねて、どんどん成長していくことができます。場合によっては、今この世にないものを生みだすことができます。だから面白いのです、やりがいがあると思います。このような観点で、皆さんも子育てをして頂きたいと思います。

そういう人を育成していくことが、やはりこれからの日本を支える原点になると思いますし、それがなされなければいけないと思います。今の時代の大人に課せられた義務ではないでしょうか?

“自ら課題を見つけ、自ら又仲間達とその課題を解決しようと努力することができる人”を、ストリートスマートとよびます。人は何人もこの像を目指さなければいけないのではないのでしょうか? これと対比してアカデミックスマートという言葉が英語にはあります。この言葉の意味は、「与えられた勉強や出された問題には、良い成績がとれる。確かに問題処理能力は高く、迅速に難しい問題も解いてしまう。答えのある問題には強い。そういう問題にはパターンがありそれをあてはめて解ける。テストでは100点はもらえない、だからパターンに当てはまらない問題は捨ててかかる。要は学問秀才ということです。」しかしこれでは現実の世界では生きていけないことになると思います。

ストリートスマートの意味を再度、説明します。「学歴が高いわけでもなく学業に特に成績が高いわけではない。でも知恵を持っており発想力・創造力に富んでおり、実務ができ実行力がある人。そして、多くの人や情報を知っておりそれをうまく活用でき成果を出す人。自分で何が課題かを考えながら、同時に解決しながら行動できる人。」

入学式でもお話ししたように、「中学生は、先ずいろんな事に興味を持つ。そして分からないことは調べる・聞く。間違っているといやだからという理由で何もしないのは最低だと思います。中学生の時にどんどん失敗して下さい。そうしながら解決の為に努力して下さい。失敗を恐れず、いろんな事にチャレンジすることから始めてください。」こういうことが、ストリートスマートの始まりではないのでしょうか? 皆さんも、是非チャレンジしてください。

そうです、失敗してもやり直しがきくんです。中学校でこそ堂々と失敗すべきなのです。自分の意志をしっかり持ってやって下さい。まず、「この学校を支えるのは、僕が、私が、だ。」をめざし、一生懸命やりましょう。期待しています。

○ このコーナーではいろんな数字(データ)を記載します。その数字を見て考えていただきたいのです。さーどうしましょうか?

文部科学省が発行している、「教育指標の国際比較」(平成25年版)から引用します。いろんな場面で思考力・判断力・表現力の育成が大切だと言われているのですが、その為に一番有効に働くものは、少人数での授業の実施で、しかもディスカッション型授業で、1対40人の教え込み型ではないと考えます。上に掲げたストリートスマートの教育には教え込み型ではだめではないでしょうか?

世界を見てみると、北欧などをはじめとして先進国と呼ばれる国々には、早くからこのディスカッション(ディベート)型の授業が導入されています。この方法で生徒達はアイデンティティをすり込まれ、自己有用感をいただいています。逆に発展途上の国は、日本の高度成長期のように、1対40人の教え込み授業をやっており、これらは、人口の増え続けている東南アジア型と呼ばれています。一刻も日本も今の状況の変化に合わせて、少人数教育を行う方向へ舵を取り、他国のグローバルイゼーションにつきあわないといけないのではないのでしょうか? 世界のクラスの現実が、どうなっているかを見てみましょう。

1) 各国の学級編成基準

(人)

	小学校	中学校	高等学校
日本	40 (1, 2年 35人)	40	40
アメリカ	州により違うが		
・カリフォルニア	30	30	—
・ケンタッキー	24-29	31	31
イギリス	30(2年まで)	なし	—
フランス	各校に一任	各校に一任	—
ドイツ	24	24, 29	
ロシア	25	25	
中国	40-45	45-50	
韓国	なし	なし	なし

2) 1学級あたりの現実の児童・生徒数 (人)

	小学校	中学校
日本	28.0	32.9
オーストラリア	23.7	23.7
オーストリア	18.4	22.0
フィンランド	19.4	20.3
デンマーク	19.3	20.0
イタリア	18.8	21.3
韓国	27.5	34.7
イギリス	24.4	19.4
アメリカ	20.0	23.2
スペイン	21.2	24.3
OECD 平均	21.2	23.4

* 日本は中国と同様の40人規模が標準です。

* 数値が「なし」という国もありますが、実際は20人前後で運営されています。

これを見ると、データ数が少ないですが、クラス内の人数が多いのはアジアの諸国でしょう。これから成長期を迎えるアジアの諸国は、多い人数です。日本も、戦後間もない時期から、経済成長を右肩上がりですべてきた時代の教育モデルを変更しないといけないのではないのでしょうか?人口がこれから減り2050年で8000万人位になると予測される国を支える人間は、今までとは違う教育モデルで育てないといけないのではないのでしょうか?現に本校も2年生は1クラス40人です。

○ 学級懇談会が4月17日(金)に開催されました。

懇談会に先立ち、14日から3日間新年度の授業参観日として設定しました。そして最終日に学級懇談会が開かれ、それぞれの学級の担任から年間の運営の方針が説明され、いよいよ新年度がスタートしました。その後各クラスのPTA 役員の選出も行われました。選ばれた方々は、お忙しい中ありがとうございます。1年間よろしくお願いいたします。

○ 部活動振興会の総会、自然教室説明会、生徒朝会での委員会の委嘱式が行われました(4月17日)

(1) 今年一回目の部活動振興会の理事会が開催され、これも今年の本格的な活動がスタートしました。部振の理事会通信にも書かせていただきましたが、このような部活を支えていただいている保護者の会はとてもありがたい存在となります。役員の方、理事の方は特によろしくお願いいたします。

部活動振興会役員(敬称略) 会長: 村山陽子 副会長: 三品紀美子、吉田久美 書記: 石川桂子 会計: 高木美佳

(2) 自然教室保護者説明会: 授業公開の日程に合わせ2年生の保護者の方に集まっていたいただき、生徒たちが内容などを説明しました。今年も戸隠の方面で都会では味わえない体験を次々に行います。それを通して、仲間の結束を強めることを期待します。今年は移動にバスを使うことになりました。気を付けて行ってきます。

(3) 委員会の委嘱: 生徒朝会にて、生徒会長から各委員会の代表者に、委嘱状が手渡され、いよいよ生徒会活動、委員会活動が始まりました。今年も昨年よりあらゆる面で改善された青葉台中になることを期待します。

○ 海外児童日本体験プログラムがスタートしました。

4月18日: みんなで準備してきたプログラムがスタートし、西新宿の会場で歓迎会が行われました。生徒たちは最初不安そうな顔で会場入りしましたが、子供たちは打ち解けるのも早く、大人のような壁もなく、すぐ和気あいあいと交流していました。このプログラムの素晴らしさに触れました。普通海外の人との交流時の言語は、基本が英語になりますが、今回はそれが日本語でした。子供たちの交流の様子とこの言語のことで、僕自身がとてつもなく新鮮でとても感動しました。

4月22日: 来日の52名の生徒たちと14名の先生たちが本校に来られ、交流を持ちました。生徒たちは、相互での紹介や、授業体験、昼食時の交流、部活動体験をしっかりと行いました。9時15分から15時30分の長くはない滞在を最大限に活かして、十分に日本で体験ができたようでした。本当に、日本の生徒も、海外の生徒も、それぞれの生徒の心に印象的な思い出がくれたと思います。関係協力者は本当にありがとうございました。

4月23日: 24名の海外からの生徒がホームステイを行いました。ご協力いただいたご家庭ではどんなハプニングがあったのでしょうか?どんな素晴らしい時間を過ごされたのでしょうか?それぞれ機会あれば教えていただきたく考えます。

4月24-26日: 全員で河口湖にて合宿交流を行います。全員の参加で各国からの歌と踊りが披露されます。青葉台中からもソーラン節、ニンジャリバンバンを披露しました。折り紙や獅子舞の体験もあり、非常に盛り上がりました。

○ 学級担任、教職員の体制 (敬称略)

先月、学級担任、教職員をお知らせしましたが、その後、変更・追加がありました。よろしくお願いいたします。

* 非常勤講師 ①中村幸子(なかむらさちこ)(数学)あざみ野中より ②藤森頼樹(ふじもりよりき)(英語)すすき野中より ③内藤修嗣(ないとうしゅうじ)(個別支援級サポート)青葉台中にて退職 ④AET: Edward Stone

* これに伴い、個別支援級の担当を変更します。

1年 鈴木美幸(すずきみゆき) 2年 木村 是英(きむらつなふさ) 3年 宮口優涼(みやぐちゆうすけ)

お詫びと訂正: 先月号、特別支援コーディネータの項目で 高泉知広(たかいずみともひろ)の名前が間違っていました。